

IMF、最悪期はこれからと警告

ポイント① 世界経済見通し下方修正が続く

10月11日、IMF(国際通貨基金)は世界経済見通しを改定しました。これによれば、2023年の世界の実質GDP(国内総生産)成長率は2.7%と、7月時点の見通しから0.2ポイント下方修正されました。一方、2022年の見通しは改定されませんでした。国・地域別では、2023年はユーロ圏が0.7ポイント、中国が0.2ポイント、下方修正されています。IMFは下方修正の主因を、数十年ぶりの高水準となっているインフレ、大半の地域での金融環境の引き締め、長引く新型コロナウイルスのパンデミックを挙げています。

ポイント② 最悪の事態はこれから

2023年の2.7%という世界の経済成長率は、世界金融危機と新型コロナのパンデミックが深刻だった一時期を除き、21世紀で最も弱い成長率です。エネルギー危機などに端を発するユーロ圏経済の収縮、不動産部門の危機が高まる中国での新型コロナの感染拡大とロックダウン(都市封鎖)の長期化、米国景気の減速など、経済大国における大幅な景気減速が続くと見られています。

ポイント③ 不確実性は非常に大きい

世界のインフレ率の見通しは、2022年に8.8%に上昇する見込みですが、2023年には6.5%、2024年には4.1%に低下すると予測されています。これは、インフレ率を抑制するために世界の金融政策当局が必要な正しい政策スタンスを策定することを前提としていますが、一方で、家計や企業が最近のインフレに基づいて賃金や物価の期待を形成した場合、インフレが上放れするリスクがあると警告しており、今後のインフレ期待形成には注意が必要です。

国・地域別実質GDP成長率見通し

(前年比、%)

	2021	2022	2023
世界	6.0	3.2 (0.0)	2.7 (-0.2)
先進国	5.2	2.4 (-0.1)	1.1 (-0.3)
米国	5.7	1.6 (-0.7)	1.0 (0.0)
ユーロ圏	5.2	3.1 (0.5)	0.5 (-0.7)
日本	1.7	1.7 (0.0)	1.6 (-0.1)
新興・発展途上国	6.6	3.7 (0.1)	3.7 (-0.2)
中国	8.1	3.2 (-0.1)	4.4 (-0.2)
インド	8.7	6.8 (-0.6)	6.1 (0.0)

(注) IMFによる予測

(注) ()内は2022年7月時点見通しからの修正幅、ポイント。

(出所) IMF「World Economic Outlook, October 2022」より野村アセットマネジメント作成
(<https://www.imf.org/>)

消費者物価インフレ率の見通し

(前年比、%)

	2021	2022	2023
世界	4.7	8.8 (0.5)	6.5 (0.8)
先進国	3.1	7.2 (0.6)	4.4 (1.1)
新興・発展途上国	5.9	9.9 (0.4)	8.1 (0.8)

(注、出所) 上表と同じ

重要イベント

- 10月27日 ユーロ圏金融政策発表
- 10月27日 米GDP(国内総生産、7-9月期、速報値)
- 11月2日 米金融政策発表

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認ください。